

「共生」の理念のもとで

キヤノン(株) 社会貢献推進室
室長 澤田澄子

キヤノングループは「共生」という企業理念のもと、世界各地でその地域に根ざした社会貢献活動を展開している。この企業理念は1988年初頭、キヤノン創立51年目のスタートにあたり、創業以来の企業としての考え方をまとめ、掲げたものである。この理念は、文化、習慣、言語、民族などの違いを問わずに、すべての人類が末永く共に生き、共に働いて幸せに暮らしていける社会を目指すものであり、キヤノンでは、その実現に向けて、事業活動のみならず、様々な社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。

主な活動分野は、人道・災害、環境保全、社会福祉、教育・学術、地域社会、芸術・文化・スポーツの6分野である。それぞれの地域社会、文化に沿った活動をおこなっているが、近年の世界各地での災害の多発などから人道支援や、人類の未来に向けた次世代育成のための支援に一層の力を入れている。



キヤノン社員からの救援物資を避難所へ届ける現地社員
(マレーシア南部洪水)

日本国内では、子どもたちの学習応援プログラムとして、キヤノンらしさを活かした「レンズ工作教室」、「カメラ工作教室」、「プリンタ解体教室」などの出前授業の実施を、グループ会社も含めた

各拠点で推進している。

また、多摩川河川敷美化活動、Jリーグの協力のもとおこなっている障害を持つおさんたちにスポーツに親しむ機会を提供する「Jリーグエンジョイプログラム」、本や使用済み切手などの収集活動などに加えて、NPOや行政の協力のもとにおこなう自然保護プログラム、WFPチャリティウォークなど、社員が気軽にボランティア活動に参加できる機会をもうけ、多くの社員や社員の家族がこれらの活動を通じて、社会や環境への関心を深めている。

日中友好を願う日本語弁論大会

地域に沿った活動として、中国では1990年から大連市政府と共同で「大連市キヤノン杯日本語弁論大会」を毎年開催している。この大会は、1989年、大連市にキヤノン大連事務機有限公司が設立された翌年から始まり、①日中の文化交流を深める、②大連市民の日本語学習意欲を高める、③大連の経済発展のためにより多くの日本語のスペシャリストを育成する、などを目的として毎年開催されているもので、今年で18回目の開催となる。

大会は、小学生の部、中学生の部、高校生の部、大学生/日本語専攻の部、大学生/日本語非専攻の部、社会人の部、独学者の部の7部門に分かれており、2006年までの参加申込者の累計は2万人近くになっている。

17回目となった昨年度は、4月、5月に実施された一次、二次の厳しい審査を勝ち抜いた21名の発表者が、1200人余りの聴衆の前で大変レ

ベルの高い日本語スピーチを披露した。決勝大会には毎年、大連市の政府関係者のほか、キヤノン本社、キヤノン（中国）、キヤノン大連事務機有限公司の経営陣が出席し、大連市の重要な日中文化交流の活動と位置付けられている。

また、大学生以上の4部門の優勝者に対しては1週間の日本での研修が実施され、日本への理解を深める機会を提供することにより、日中友好の掛け橋となる人材育成に役立っている。この大会に出場した日本語のスペシャリストたちは、大連市、全国の政府機関、企業、学校、商社などの各分野で日中の友好交流と経済貿易交流のために活躍している。

自然環境、野生動物の保護を目指す

北米では1979年から高校生たちに自然環境への関心や自然環境保護活動への参加を促すことを目的とした「キヤノン・エンバイロソン」を実施している。現在では、米国とカナダの高校生やボランティアが毎年50万人以上も参加する北米最大の環境科学コンテストになっている。この活動の大きな長は、実際におこなわれている自然環境保護・管理活動に学生たちが参加していることである。その中で学生たちは協力し合い、意見を交換し、成果を発表することでこの活動の価値を学んでいる。



「キヤノン・エンバイロソン」で優勝した高校生（アメリカ）



「大連市キヤノン杯日本語弁論大会」
参加者全員の記念撮影



日本語弁論大会でスピーチ
をする参加者（中国・大連市）

ヨーロッパでは、1998年、キヤノンヨーロッパが企業では初めてWWFコンサベーションパートナーとなり、以来継続して支援している。その一環として、野生動物などの貴重な記録が高画質デジタル画像で1万6000点以上がストックされている、WWFグローバルネットワークの写真データベースの運営に協力している。

また、2006年7月には赤十字社とパートナー契約を結び、これまでの共同プログラムにとどまらず、ヨーロッパにある13の赤十字社それぞれが展開する青少年の支援・教育プロジェクトにも協力している。このプロジェクトでは、カメラ・デジタル複合機などのイメージング機器の寄付、さらに経済的支援やボランティアをはじめとする人的支援など汎ヨーロッパにおける協力関係を一層強化している。

これからも「共生」の企業理念のもと、良き企業市民として、キヤノンらしさを活かしながら、顧客、地域社会に対してはもちろん、国や地域、地球や自然に対してもよい関係をつくり、社会的責任を果たすための努力を続けていきたいと考えている。

◆キヤノングループの社会・文化支援活動
<http://web.canon.jp/scsa/index.html>